

作成日 2026 3月 26日
(最終更新日2026年 4月 1日)

受付番号：

課題名：院外心停止患者に対する生命/神経学的予後良好を予測する因子の検討

1. 研究の対象

2020年1月1日から2025年12月31日に病院外での心停止のために当院救命救急センターに救急搬送され、入院加療を行った患者で適格基準を満たし、除外基準に抵触しないものを対象とします。

2. 研究期間

研究実施許可日～2027年12月31日

3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

当院で試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。

利用開始予定日： 研究実施許可日

提供開始予定日： 該当なし

4. 研究目的

日本では、院外で心臓が止まる「院外心停止」が毎年およそ10万人に発生しています。救急医療の進歩により、蘇生行為により再度心臓が動き出す患者さん（ROSC）は増えてきましたが、その後の回復、とくに脳の機能がどこまで保たれるかという点では、依然として厳しい状況が続いています。

実際には、回復の見込みが低いと判断された場合に治療が中止されることも多く、患者さんの予後は、早い段階での予測や評価に大きく左右されている可能性があります。そのため、心拍が再開した直後から、できるだけ正確に予後を見極めることが重要です。

これまで対光反射や脳波検査などが用いられてきましたが、近年では瞳孔の反応を数値化した指標（NPi）や、全身状態を評価するSOFAスコアなど、より客観的な評価方法も注目されています。

本研究では、これらのさまざまな指標が、院外心停止後の生存や神経学的回復とどのように関係しているのかを明らかにすることを目的としています。

5. 研究方法

研究対象者の選定基準は、2020年1月1日から2025年12月31日までに、当院救命救急センターに救急搬送され、入院加療または死亡された18歳以上の患者さんを対象としており、性別は問いません。

選定基準を満たした方について、診療録から年齢・性別・検査結果・治療内容・転帰などの情報を採取し、匿名化したうえで、集計・解析を行います。

既存の情報の収集を行うだけであり、患者さんに新規に行っていただくことはございません。また、対象となった患者さんの費用負担や謝礼などはございません。

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、血液検査結果、画像検査結果、治療内容、転帰 等

7. 外部への試料・情報の提供

該当なし

8. 研究組織

本学単独研究

9. 利益相反（企業等との利害関係）について

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われえないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。本研究は大学の運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。あなたには帰属しません。

10. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院における照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者の所属・氏名： 東京科学大学病院 救命救急センター 特任助教 河原 直毅

連絡先：03-3813-6111（代表）（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

当院の研究責任者：東京科学大学病院 救命救急センター 特任助教 河原 直毅

1 1. 苦情窓口

東京科学大学 研究推進部研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）